

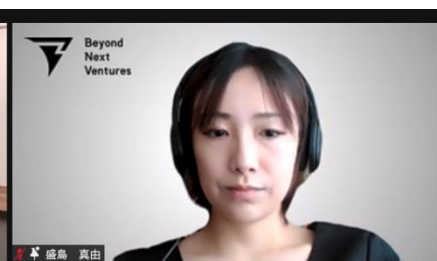
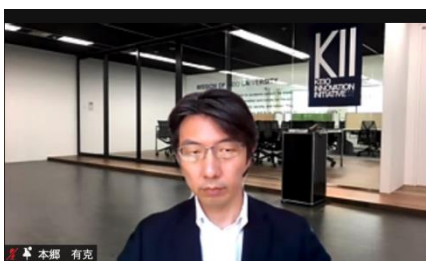


Research Studio SCIENCE PITCH の翌 6 月 12 日（土）、Research Studio2021 選抜プログラムに先立つ関連 3 イベントの締めくくりとして、慶應義塾大学主催（共催：筑波大学、大阪大学、Venture Café Tokyo、CIC Tokyo）で International Symposium がオンライン開催された。100 名以上の参加者が視聴するなか、大学、スタートアップ、行政、国内外の医療系アクセラレーター、投資家等、非常に多様な講演者が登壇した。

プログラム前半は、慶應義塾大学 佐谷氏から開催挨拶の後に、文部科学省 建部俊介氏と厚生労働省 田中大佑氏から来賓挨拶をいただいた。地域イノベーションと大学発イノベーションのセッションでは、慶應義塾大学 吉元良太氏からご講演いただき、プレナリーレクチャーとして、Stanford SPARK Global の President である Daria Mochly-Rosen 氏からコロナ禍における SPARK の活動について「SPARK in the Time of COVID19」ご講演いただいた。昨日に続きご参加いただいた Roche Pharma Partnering Asia の Harm-Jan Borgeld 氏からは、Industrial Insight として「ロシュの戦略と日本のスタートアップへの期待」をご講演いただいた。

プログラム後半は、国内の医療系アクセラレーターを一堂に会して、Roud Table Discussion が行われた。筑波大学 T-CReDO の Research Studio からは小柳先生、湘南ヘルスイノベーションパークからは藤本利夫氏、BlockBuster TOKYO や BRAVE を運営する Beyond Next Ventures（株）からは盛島真由氏、（株）慶應イノベーション・イニシアティブからは本郷有克氏、CIC Japan 合同会社からは名倉勝氏が参加され、それぞれの事業やプログラムについての紹介の後、国内のスタートアップエコシステムの形成についての課題や今後の国内の医療系アクセラレーターの連携に関わることなど興味深い内容のディスカッションがなされた。

最後に、慶應義塾大学の副島氏から閉会挨拶が行われ、盛況のうちに終了した。7 月から開始される Research



Studio2021 選抜プログラムに向けていいスタートを切ることができた。

